

マルセイニュース 7月号

発行日 2019/7/23
株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL.0146-22-5123

“住民と共にある病院”を目指しています！

7月13日(土) 赤十字フェスティバル in 浦河日赤



7月13日(土)、赤十字のキャンペーンイベントが開催されました。病院ロビーを会場にワンコイン血液検査や簡単血糖チェックのほか、各種相談や体験コーナーが設置されていて、わたしは高齢者体験装具“おいたろう”を体に付けて老人の疑似体験。こんなに体が重いものなのか・・・と、とても勉強になりました。

赤十字の活動や事業をもっと知ってもらいたいと毎年開催されているイベントです。会場で、「もっと外に出て、地域住民のみなさんと一緒に病院の中だけではできない地域医療の充実に力を注いでいきたいんです。」とお話しをしてくださった看護師さんたち。“住民と共にある病院”を目ざして日夜頑張っている皆さんの熱い思いが伝わりました。

マックス

🍓「うらかわ夏いちごの日2019」 7月15日(月) 堺町基幹集落センター 🍓



浦河で、「夏いちご」をより一層盛り上げようと始まったから、今年で4年目！
みなさん楽しみに待っていたのですね。子どもからお年寄りまで、新鮮でおいしい夏いちごを求める人でいっぱいなのは、どきも長蛇の列。1パック200円の格安価格で販売されていたコーナーをはじめ、いちごの詰め放題、いちごクレープ作り、いちごどら焼き体験など、いちごをたっぷり味わえる楽しいイベントは大盛況でした。

ご予約の順に 分解整備進行中です

肌寒いような天候が続いた7月。朝夕に、まだまだストーブを使っているお宅が多かったようです。ようやく暖かくなってきたので、分解整備のご依頼が入ってきました。内部の消耗品を交換して、しっかり清掃する分解整備ですが、「キレイになったね〜」とお褒めいただけるような外面の仕上がりもマルセイの自慢です。



一度点火すれば、「火が青くて燃え方が全然違う！」と整備前後の違いを実感いただけるはずです。秋は注文殺到でお応えできないこともあるので、毎年お早めのご依頼をおすすめしています。



ひとりで困っていませんか？ 片付け仕事はおまかせを！

先ずはお気軽に
ご相談ください

物置の解体と家の周りの木材処分、こんなにつきりしました！住宅の持ち主さんからのご依頼にお応えして喜んでいただきました。

小さな物置の解体と傷んでいた木の塀を壊したあとの木材の処分を半日で終了！気になっている片付け仕事は、お気軽にご相談ください。チームマルセイがお役にたてます♪



ボイラーの調子はいかがですか？ 灯油ボイラーの修理・交換もお任せください！

給湯器が故障したときの解決方法は、「修理」か「交換」のどちらかひとつ。どちらを選択するべきなのかが悩みどころです。保障期間を過ぎてからの修理費用は、『出張費+部品代+技術料』で算出されます。設置してから10年前後の場合は修理費用が高額になってしまったり、修理後にほかの箇所が壊れる可能性が高くなるので交換をおすすめしていますが、高価なボイラーは早めにメンテナンスをして長く使っていただきたいです。



「マルセイでボイラーもつけられるの？」というお問合せをいただくことが増えてきました。最近では、住宅の建て替えやお引越しの機会にご用命いただいています。

ボイラー設置も
お任せ下さい！

現在使われている製品の移動のご相談もありますが、製造からずいぶん経過したボイラーを使用されている場合も。メーカーは製品の製造終了から10年で部品供給をストップします。そんな理由からボイラーの寿命は8〜10年と言われており、不具合が出た場合は新規購入をおすすめしています。当社に購入・設置からお任せ頂ければ、万が一の故障の際にもしっかり把握して対応できます。点検も無料です！

灯油ボイラーの
勉強をしました

今月は、社内で「灯油ボイラー分解整備」の勉強会を実施しました。取引先のたいせい(苦小牧市)さんからベテラン技術者の宮本さんに浦河まで来ていただきました。メーカーの違う2台の機種を実際に分解整備する様子を見ながら学び、会社に戻つてからは、自分たちも実際に分解整備の練習をしました。みんなで共有できる学習会が良かったです。





ひよっこムトウ ただいま、経営修行中です！

ムトウです。今月から僕の新しいコーナーができました。ここではマルセイの跡継ぎとして取り組んでいることをご紹介しますね。面白いかどうかはわかりませんが、ご覧くださいます。宜しくお願いします！

目指せ、『ガス設備士』 一発合格！

早いもので入社してあつという間に半年が過ぎました。以前書いたように、今年も資格取得に一通り取り組みます。いまだに「マルセイって何やってる会社なの？」と聞かれることもありますが、実は(？)ご家庭向けのガス・灯油の販売をしています。7月はそのガス販売にかかわるガス設備士を受験します。

この資格をとると、屋外にあるガスボンベ周りの配管ができるようになります。お取引開始時や定期の保安点検なんかもこの資格でOKです。

取得するには三日間連続の集中講義のあとに筆記試験があり、合格するとさらに実技の試験もあるのですが、それに勉強が必要そうです。一発合格を目指してがんばります。

とは言え恥ずかしながら、どの設備がガスか灯油かもわからないような素人だったので、なかなか大変です。でも中にはそういうお客様もいるはず。そういう素人目線も大事に、忘れないようにしたいものです。そこで、マルセイの職場環境もそんな素人目線で改善に取り組んでいます。

今までは社員も少ない家族経営的な会社で、なんとなくという感じでまわってきたところもあるようです。でも、形やルールをつくることでもっと働きやすくなりそう。

『お支払いカウンター』 をつくりました



最近では、このお支払いカウンターの設置です。「え？今更？それだけ？」と思われるかもしれませんが、今までなかったんです。

すると困るのは、我が社の大蔵大臣ばわふるさんが留守中にお客様がみえたとき。

「あれ、ご請求金額は？」 「釣銭はどこと？」 「収入印紙は？」 と、お客様の前でみんなドタバタ・・・せっかくなので社頂いたのに出直すハメになることもあり、大変申し訳なかったです。

でもこれでもう大丈夫！会社にいる者が誰でも落ち着いて対応できますので、営業時間中はいつでもいらして下さいね。

ムトウ

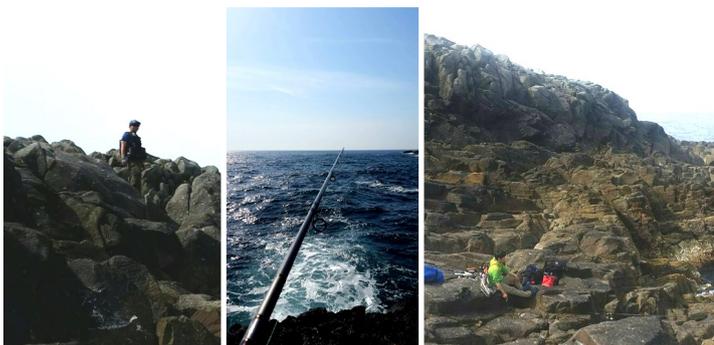


休日はしっかり遊んでリフレッシュ！ “ブリ釣り” にチャレンジ

夏季は燃焼機器のメンテナンスや体力の要る片付け仕事なども頑張っています。週末の連休を利用して、積丹へブリ釣りに行きました。今回で5回目でしょうか、毎回1泊して挑戦しているのですが、残念ながらまだ1匹も釣れていません。

太平洋と日本海では、海が全然違うのですが、そのどちらの釣りも楽しいです！釣れるともっと楽しいだろうけど、次回こそは頑張ります！

氣田恭平
氣田圭佑



今年の夏季期間も 環境整備に取り組み中！

毎年、夏季期間は集中して環境整備に取り組んでいます。人手が揃ったこともあり今年はいよいよ一層の改善を進めています。トラックがいつでも洗えるように、自分たちで水道管を延長。これで作業がぐんとラクになりました。なかなか捨てられずにいた古い部材類も、今年には思い切って捨てたので随分とスッキリしました。環境整備はまだまだ続きますよ。



「浦河小唄」を踊ったのは、小唄を覚えていた高齢者クラブ「浦河寿会」のみなさまを始め「ひよっこ踊り」や「フラダンス」同好会のメンバーです。

「HAMASAI(ハマサイ)」開催！浜町通りに賑わいが復活しました！

「HAMASAI 2019」が初開催！好天にも恵まれて大盛況だった開催当日は延べ3千人もの来場者が！昨年一昨年と開催された「うらフェス」のマーケット&ギャラリーや音楽祭での経験も活かされ、短期間の中でも順調に準備が進められていたようです。頑張っていた実行委員の若者たちをはじめ、出展者や各関係の参加者のみなさんお疲れさまでした。初回開催のメインとなったのは「浦河小唄」の復活でした。復活までのエピソードを含め、実行委員の一人・地域おこし協力隊の山口このみさん（現在産休中）に紹介していただきます^^

7月6日(土)に初開催された「HAMASAI 2019」上笠実行委員長から「浜町でお祭りをやりたい。実行委員として参加して欲しい。」とご相談を頂いたのは、娘を産んでまだ数週間程の時期でした。



「どうしよう...」と悩みました。私が出来ない部分が出てくるからと、思いついてくれた事もあり、思い切って携わる事になりました。HAMASAI実行委員会は大通り・浜町周辺で育った30代のメンバーで構成されています。昔の浜町フェスティバルのような賑わいを大通り・浜町に再現したい。そして子どもたちが自転車で遊びに来れる、様々な体験や大人との関わりを学ぶような場になりたい。そういった思いでこのお祭りを企画することになりました。そこから怒涛の準備が始



まり、育児の合間を縫って、告知、出店者募集、各所への手続き、打合せと目が回る数か月間。有難いことに、多くの出店申込を頂きマーケット部分はスムーズに準備が進みました。浦河消防署や警察署、海上保安庁の方々にもブースを構えてもらい、町内の安全を守る職業に触れる機会を子どもたちに提供できました。



「浦河小唄」を復活できないかと

そんな準備の中で、以前父から聞いた「浦河小唄」のことを思い出し、これをHAMASAIで復活させられないだろうかとお実行委員会にて提案しました。浦河百話にも掲載され、昭和初期にレコードまで作られたというこの唄ですが、30代の私たちは聞いたことも、踊りを見たこともありません。

40代、50代の方にも聞いてもみなさん知らない。60代の方でやっと「サビは知ってる」との答え。誰か踊れる人はいないのか。上笠さんが走り回ってくれて、やっと浦河寿会のみなさんが踊ってくれることになりました。



数回の練習会を開き、迎えた当日は着物をビシッと

きめたお母さん方が浜町を踊り歩きました。やなぎ前の十字路では、見えていたお客さんと一緒に円になって踊り半世紀を超えて「浦河小唄」が復活し祭りを盛り上げてくれました。「HAMASAI 2019」は延べ3千人もの来場を頂きました。お客様、出展者のみなさん、そして浜町通りのみなさん誠にありがとうございました。HAMASAIは来年も開催予定です。



HAMASAI実行委員
浦河町地域おこし協力隊
山口このみ



4、「まさご」さんの店頭には前日ゲストハウスに宿泊していたオーストラリアの若い女性が自転車で北海道を回る予定の2日目に飛び入り参加！^^



浦河町ふるさと納税の返礼品に「大黒座オリジナルチケット」が登場！

この7月1日から、浦河町ふるさと納税のお礼の品に「大黒座オリジナルチケット」が加わりました。映画館がある町だからこそ誕生した返礼品！北海道で最古の映画館として101年目を迎えている大黒座が、新たにわが町浦河町の熱烈PRに一役買っています^^

「映画を見ない人生より、見る人生の方が豊かです」これは、大黒座の先代館主の三上政義さんの言葉です。映画を見るたびに、そうだなあと思うこの頃です。

都会でも映画館がないことが多い現在。大黒座に行くと、明らかに他所の町から来た人だらうな：と思う人に出会うことが多いです。ロビーで話をさせていただけると、ずいっと前から一度は来てみたかったと話される人が多いです。だから、ふるさと納税の返礼品に大黒座で映画を見ることができるとオリジナルチケットが加わったことを喜んでくれる人も多いのでは？と思いました。

先日も大黒座で映画を見るために小樽からバイクで浦河に来たという方と一緒に映画を見ました。

大黒座では今月も面白いような映画の上映が続いています。先日は、見逃しそだった映画を初めて夜9時からのレイトショーで楽しみました。映画館があるおかげで、気軽に映画を見る機会に恵まれています。最高に贅沢なことですね。



昭和33年か34年 星正栄氏撮影



昭和35年 星正栄氏撮影 (浦河町博物館所蔵)



映画が最大の娯楽だった時代の写真ですね。はがされたポスターが知りたくなります。鈴木翁二さん原画の右のポストカードは、最近大黒座で販売開始になったものです。古い大黒座の、あの入り口の感じがよく出ています。なつかしいなあ..



浦河小唄

♪港う~ら~か~わ さあさ 浦河良いところ さても 浦河良いところ ♪

半世紀を経て復活した「浦河小唄」！昭和5年に念願だった浦河港が完成。国鉄浦河駅の開業（昭和10年）を間近に控えた浦河が新しい時代を迎えようと活気があった頃に、浦河の歌を作ろうじゃないか！という気運が盛り上がり作られたそうです。

歌手は東京小花。蓄音機のある家が珍しかったこの時代に、なんと1千枚ものレコードを作ったそうです

1千枚のSPレコード！

「浦河小唄」のレコードが作られました。

昭和9年に浦河町役場が「浦河小唄」、日高支庁は「日高小唄」の制作を企画して、それぞれ歌詩を募集。やがて道新の前身である北海タイムスの審査により、浦河小唄には当時役場の収入役だった工藤以直（いちよく）が、日高小唄には正信寺前住職前田昶（と）おるの歌詞が当選。町内の時計店主・森君一さんが奔走し、個人でレコード化を図られ、昭和10年頃に「浦河小唄」のレコードが作られました。



昭和46年8月港まつり大パレード

驚きました。森さんは自ら宣伝用の立看板を作って、若松昭和初期にあった料亭を借り切った発表会でお披露目を。このとき、浦河小唄、日高小唄の曲に合わせて十一人の芸者たちが艶やかに踊ったそうです。想像するとワクワクしますね。

これを目玉に浦河を売り出そうと人々は口々にほめ称え、そうした声に力づけられてまずは飲食店と旅館巡りから始まり、人から人へと売込みが始まりました。浦河が歌になったと喜ばれ、蓄音機のない家までも一枚八十銭のレコードを買ってくれたそうです。やがてあちこちのカフェや酒場から、昼となく夜となくこの歌が流れ、宴会のたびごとに歌われるようになり...こうして二年間で七百枚を売ることができ、残りも数年後にはきれいになくなったとか。そんな幻のレコードの唄と踊りが流れたHAMASAIは笑顔いっぱいでした！



最近読んだ本の中より…



『商人道ノススメ』

松尾 匡(1964~)著 藤原書店 出版

かつての日本にあった道德体系は武士道だけではない。武士道などはごく一部の支配層の道德に過ぎなかった。一般庶民はそれとはちがう道德観の中で生きていたのである。そのもっとも体系化されたものこそ、商人道である。(本文より)

石田梅岩。学校で習いましたが、どんな人かまるで覚えていません。本書を読んで、商人道を基礎づけた梅岩さんに俄然興味を惹かれました。久々に夢中になった本でした。

著者は本書の前半部で、近年の企業不祥事を振り返ってみようと記します。2009年刊行の本ですから、挙げられている事件はみんな、おーこんなことあったねえと思ってしまう懐かしいものばかりです。雪印食品牛肉偽装事件、マンション耐震強度偽装事件、カネボウ粉飾決算事件、保険金不払い事件などなど。これらの褒められない不祥事から10年ほど経ち現在があるわけですが、相も変わらず組織が嘘をつく、隠蔽してきたがバレたという出来事が後を絶ちません。

「武士道」は身内を優先する

著者はその理由を、「日本社会には極めて強固な、身内集団を優先する道德がある」からだと言います。そしてこの価値観の重要な一翼を担っているのが「武士道精神」なのです。

武士にとって重要なのは自

分が仕える殿様と藩です。この主君の利益(名誉などの目に見えない価値も含まれます)を守ることも大事なこと、そのためには命を投げ出すことが尊ばれ、ときには他人の命を奪うことも立派なことになります。不始末が表に出ることは不名誉なことですから、隠します。バレそうになると主君の代わりに罪をかぶります。役所広司主演の映画『蝸ノ記』なんか、まさにそういうお話でした。良い映画ですけど、第三者からすると不正義と見える行いも、サムライという身内集団の内部では「すじが通っている」というわけです。

他人に対する誠実が「商人道」の基本価値

対する商人道の価値観は全然ちがうと著者はいいます。「他人に対する誠実」わけだてない公正」が商人道の基本価値です。著者は日本にあった商人道の実例として、おそらく百年ほど前まではひろく影響力を持っていた近江商人や石田梅岩の考えを紹介しています。

わたしは知識が何もなかったもので、驚きました。行商に出る商

人たちはまず、他藩の者に信用されなければ商売はできません。そのためにはまず、顧客を公平に扱い信頼を得ます。古い商家、三井や住友や高島屋などの家訓も紹介されているのですが、「侍も丁稚の小僧もおなじく鄭重に接せよ」というのもあります。飢饉や大水のときには、商家が今で言うボランティア活動や多額の寄付をした記録も多数あります。また、こういう大商家では能力が高い女性が主を務めた例もありますし、娘が生まれると、これで優秀な男を婿にすれば店にも良いとむしろ喜んだともいいます。商人の世界の方が武士よりも、よほど開かれた世界だったというので

世の中はどいでも食うか食われるかだけではない

す。ヒト様の暮らしをよくすることをまず考え、困っているときは手を貸し、そうするといつかは自分にも得が返ってくる。世の中はどいでも食うか食われるかだけではないと考える「商人国家」のどこが悪い！誇らしいではないか、という著者の考えに感動しました。

社長



2019 伏木田光夫油絵個展

札幌市 大丸藤井セントラル スカイホール 7月9日(火)~7月14日(日)

札幌市で開催された浦河町出身の画家・伏木田光夫さんの個展に行ってきました。初日の会場に着くと、札幌在住の浦河町出身の方々や浦河からバスに乗ってやって来た大勢の町の人にも会いました。札幌中心部の展示会場3つのホールに出展されていた伏木田さんがこの3年間に描いた70点以上の作品。見ごたえのある個展でした。



3年ぶりの個展の案内状には、「前ばかり見ている振り返ることはなかった」という画家が80代になって感じていいるという寂寥感静かにつぶられていました。「もう70年も絵を描いているのですが、絵の世界は深く毎日描いてもとどきません。僧院の坊さんのように、やっています。」とも。浦一中時代に15才から描き始めた油絵。それからずっと絵を描く人生を続けて来られたんですね。その内の、ここ3年間の作品に出会うべく夫婦そろって何うことができました。

先生を待つている方がたくさんいらつしやいますよ。今年の秋も浦河でお会いできますか？ 次の絵に出会う日も楽しみにしています。

マックス



フライパンひとつで!



ガスを使っておいしくクッキング



卵とトマトと春雨

「卵はふわふわに、トマトは上手に水分を保ちながら炒めるのがコツ。鶏ガラのダシを擦った春雨でカサ増し効果もあって、酢やラー油で味にメリハリをつけると美味しさが広がります。」こんな風に紹介されていたレシピですが、なるほどおいしくできました。おすすめ!



●材料 (2人分)

- ・トマト … 2個(200~250g)
- ・緑豆春雨(乾燥) … 30g
- ・卵 … 2個
- ・しょうがスライス … 3枚

<A>

- ・砂糖 … 大さじ1と1/2
- ・塩 … 2つまみ程度

- ・サラダ油 … 大さじ1と1/2

- ・鶏ガラスープの素(顆粒) … 小さじ2
- ・水 … 1/2カップ
- ・塩 … 1つまみ
- ・ラー油 … 適宜



●作り方 参照「暮らし上手」のレシピ

- 1、トマトはへたをくり抜き、4等分にくし形に切る。しょうがは千切りにし、緑豆春雨は約5分ぬるま湯につけ、キッチンバサミで食べやすい長さに切っておく。
- 2、ボウルに卵を溶いて<A>を混ぜる。フライパンに油を熱し、たまごを木べら等で手早くかき混ぜ半熟程度まで炒めて火を通したら、一度取り出す。
- 3、2のフライパンに油を足し、トマトを炒める。表面が透き通ったらを入れ、さらに緑豆春雨を加えて2分煮る。
- 4、2の卵を戻し入れてさらに2分ほど煮てお皿に盛りつけたら出来上がり♪(お好みで酢を回し入れたり、ラー油を少量かけたり、万能ねぎや香菜を加えても美味しいですよ~)



簡単でおいしいので作ってみてね~ おいしくいただきました♪

^^ 「思った以上に美味しい!」と好評でした♪

お~っ、いい感じ♪と思ったら…あっ!春雨を入れるのを忘れてました。ノリノリ。まあいいや、きっと大丈夫でしょうとあわてて後入れ。ほ~ら、ふんわり卵とトマトと春雨の一品がちゃーんと完成しました!この料理、食材費が安くて簡単にできておいしいですよ。ぜひ、地場産の旬のトマトで作ってみて下さいね~。

今日の話は、なぜかバターライス! 還暦組とばわふるは若者たちがバターライスを知らなかったことにびっくり! 昔はごちそうだったのだよ…という話から、話題は在詔の『鯛みそ』へ。『タイみそ』じゃないの、鯛みそ! 今みたい豊富にエスニック料理もなかったよね。あ~、あのオレンジ色のあの在詔はごちそうでしたね~。え? 今も? そっか~、重症便秘で入院していたばわふるさん。重湯で食べた鯛みそは感動的においしかったって^^



今日はさっちゃんがないので社長に手伝ってもらったよ。お風に間に合ってたよ。さあみんな、地場野菜もたくさん食べようね。



本日のワンプレートは温野菜と半額肉のしゃぶしゃぶサラダ、気持ちばかりの焼きサバも添えて^^



実は僕、ちょっと胃の調子がおかしくて…

